

研究・調査報告書

報告書番号	担当
399	滋賀医科大学社会医学講座公衆衛生学部門
題名 (原題/訳) Determination of lifetime injury mortality risk in Canada in 2002 by drinking amount per occasion and number of occasions. 一回飲酒量と機会数からみた生涯外傷死亡率の決定因子 2002年カナダ	
執筆者 Taylor B, Rehm J, Room R, Patra J, Bondy S.	
掲載誌 (番号又は発行年月日) Am J Epidemiol. 2008 Nov 15;168(10):1119-25; discussion 1126-31. Epub 2008 Aug 20.	
キーワード 飲酒、死亡率、リスク評価、外傷	
要 旨 背景： カナダでは外傷はアルコールが寄与する代表的な死因である。そのリスクは飲酒量と飲酒回数に決定される。	
方法： 我々はアルコールと関連しない外傷の絶対リスクと性別・一回飲酒量に特異的な相対リスクを生涯の飲酒回数を考慮して比較し、2002年カナダにおいてアルコールが寄与した外傷死亡率を推計した。	
結果： 絶対リスクは一回飲酒量、飲酒機会が増えれば共に増加した。絶対リスクは飲酒量に関係なく1ヶ月に2回以下の飲酒では比較的低かった。男性では1ヶ月に1機会に5杯以上飲む、女性では1ヶ月1機会に5-7杯飲むことで絶対リスクは1(1000人あたり)増加した。週に3回・3杯以上の男性、週に3回・5杯以上の女性で死亡率は100分の1に達した。	
結論： この研究から安全な飲酒量を提示することは出来ないが、標準的な3杯までの飲酒量、週に3回以内の飲酒ではリスクは低かった。絶対リスクは長期の飲酒パターンを反映するし、リスクコミュニケーションやアルコールコントロール政策において重要となる。	